

万博公園探鳥会

2026年9月12日(土)

田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
玉置こるり・藤村和彦・平軍二(090-6901-1425)



↑ 20230511抱卵中の親鳥
←20260829上空を飛翔する若鳥
(2枚とも 橋本昌宗氏)

漢字名 蒼鷹

I 万博公園の鳥第14回「オオタカ」 学名 *Accipiter gentilis* 英名 Northern Goshawk

8月万博公園探鳥会は夏休みとしたが、暑さが和らぐと思われる8/29(第4土)に、リーダーのみによるモニタリングを行った。途中小雨のぱらつくなどがあったが、秋の渡りのオオヨシキリが声で確認するなど、思いのほか良く鳥が出てくれた。終了後にオオタカ若鳥の飛翔が確認されたことから、万博公園におけるオオタカ繁殖の経緯をまとめてみた。

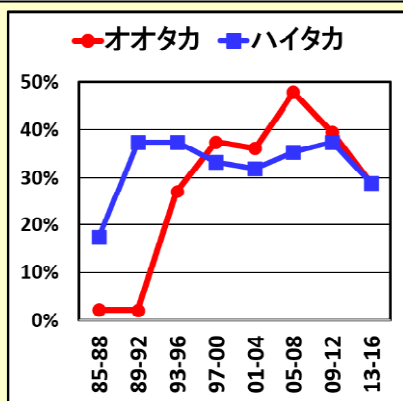
万博公園でオオタカが初めて営巣・子育てをしたのは2007年、「松の池」のアカマツ林であったが、子育て期に「あじさい祭」が開催され「上津道」に人通りが多かったことなどで、翌2008年は「水鳥の池」南側の「野鳥の森」内タブノキで営巣した。万博公園事務所により「生物調査中」として立ち入り禁止区域を設定されるなどで保護されたこともあり、毎年の営巣子育ても順調であった。その後、「野鳥の森」内北西のスタジアムに移動したが、中津道から近い所でカメラマンに見つかったこともあり、2015年からは営巣しなかった。

2023年に9年ぶりで「ビオトープの池」北東のラクウショウに営巣、ヒナ誕生するも巣立ち直後に高さ10mほどから地上に落下し死亡した。その後繁殖し・子育てしていないままなので、今回観察したオオタカ若鳥は、渡りの途中に立ち寄ったと思われる。

万博公園で繁殖し始めた2007年～2026年までの20年間で、オオタカの孵化(ヒナ誕生)数は13羽、分散数(巣立ち1～2か月後に親から独立)は8羽であった。入場者が多い都市公園の人工林で、オオタカがこれだけ繁殖・子育てした所は、全国的にもあまりないと思われ、今後も期待したい。

I ②万博公園探鳥会での観察頻度

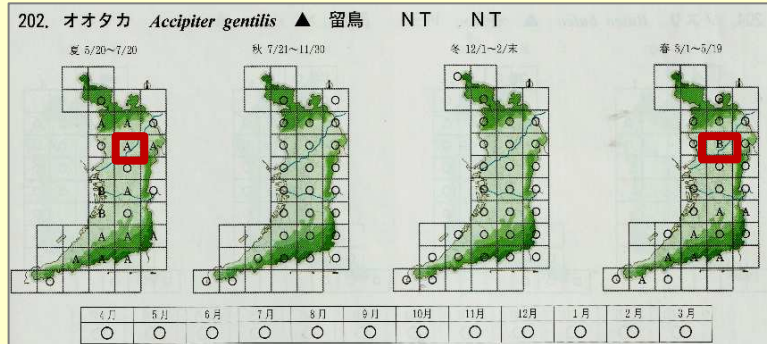
万博公園では上記の通りオオタカが2007年～2014年の間、繁殖していた。オオタカの観察頻度(右図)から、ハイタカより遅れ2000年頃から増加した。この図から2007年より繁殖していたものの、観察頻度は増加していない。



オオタカ(20110318)有賀賢介氏

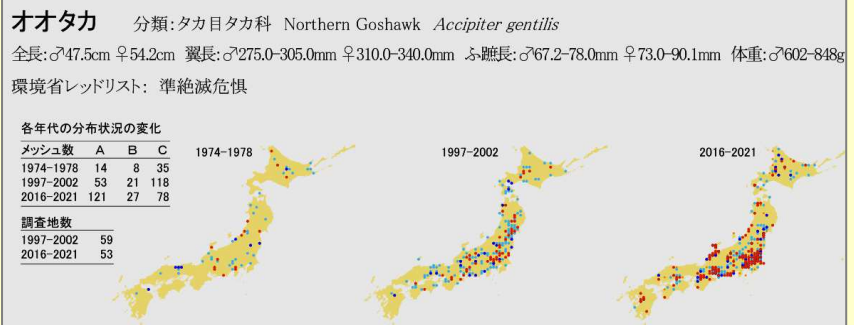
I ③大阪府鳥類目録

オオタカは留鳥として大阪府内の全メッシュで記録され、繁殖しているところも多い。
2000～2001年調査で48つがい
が確認されたが、2014～2015年調査では15つがいの営巣を確認し、31羽以上のヒナが巣立った。



I ④全国鳥類繁殖

分布 鳥類繁殖分布調査会
九州以北の低地から森林で留鳥として繁殖する。主な繁殖地は農耕地や草地など開けた環境と森林が混在する低地から丘陵地である。
1970年代から1990年代にかけて急激に拡大した。



I ⑤世界の分布図真木・大西 日本の野鳥 (2000年)平凡社

地球の北半球、ユーラシア大陸・北アメリカ大陸に留鳥or夏鳥として広く生息しているタカ。
日本では全国で留鳥として生息。



II ① 7月探鳥会報告 参加者15名24種

今日の万博公園で最もにぎやかだった鳥はムクドリ、過去最高レベルの77羽カウントした。
セミに負けずとさえするウグイスの歌(7羽カウントもよく聞けた)。

今月の話題提供として、資料に載せた環境省より発表された第5次レッドリスト(野鳥誌5-6月号)について第4次との比較して説明した。

- ① トキ・コウノトリなど、人工的に増殖した貴重種はトータル500～600羽と多くないが、個体数が安定してきたことから、絶滅危惧ⅠB類(EN)にランクダウンしたこと、
- ②① キンクロハジロなどは越冬数が数万羽と多いが、越冬数の減少がみられること、
- ②② バン・コサギなども繁殖数は多いが、水田の改修など生息環境の悪化で繁殖地点が減少しているとして、これまで全く絶滅の心配がないと思わるランク外だったのに、絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクインしたことを説明した。

快晴で今年一番の暑い一日、クマゼミの声が響く園内で、鳥たちも負けずに懸命に生きている姿を見せてくれた一日となった。



↑写真 左マガモ 中カルガモ 右カワセミ (橋本昌宗氏)

Ⅱ ②8月29日モニタリング記録 参加者3名(リーダーのみ)

8月定例探鳥会は夏休みにしたが、暑さが和らぐ8月末にリーダー3人によるモニタリングを行なった。「夏の花八景北東、東の広場」との境の樹林では「カラの混群」が見られ、コゲラ・ヤマガラ・シジュウカラ・エナガ・メジロが東に移動していた。「花の丘」では上空をツバメ・コシアカツバメ・チョウゲンボウが飛び、エノキでは「カラスの枝落とし」、近くの草むらに「カラスのペリット」と思われるエノキの種子の塊が落ちていた。「水すましの池」ではカワセミ、そして木の葉陰から秋の渡り鳥オオヨシキリの特徴あるさえずりが聞けた。その「水すましの池」と「水の広場」間の千里橋通に植栽されたヒマワリには、カワラヒワ・スズメがそれぞれ20羽以上の群が採餌していた。

途中で小雨がぱらついたものの涼しい日和、終了後に橋本氏がカイツブリの親子と、オオタカの若鳥を確認され、27種となった。



上左 チョウゲンボウ
上中 エナガ
上右 カワセミ
下左 ハクセキレイ
下右 コサギ
写真 橋本昌宗氏



Ⅲ 次回万博公園探鳥会 10月10日(土)9:30～

今月同様、大阪支部HPホームズ様式からお申込ください。

又は、平宛

メール g. 0501.hi@gmail.com

電話 090-6901-1425

で連絡ください。

右写真は昨2025年10月11日
万博公園探鳥会での観察した
ハシビロガモ(橋本昌宗氏)→
です。

1985年2月にスタートし42年目の万博公園探鳥会で、ハシビロガモの観察は4回目でした。今年はどうでしょうか。



IV 万博公園探鳥会 観察鳥チェックリスト(第8版ベース)

万博 NO	第8 版	種名	2025				2026				万博 NO	万博 NO	第8 版	種名	2025				2026				万博 NO
			7 12	8 30	9 13	10 11	7 11	8 29	9 12	10 10					7 12	8 30	9 13	10 11	7 11	8 29	9 12	10 10	
1	21	オシドリ									1	56	456	ヒヨドリ	11	5	9	33	17	5			56
2	23	トモエガモ									2	57	461	ツバメ	9	3	3		1	3			57
3	27	オカヨシガモ									3	58	462	イワツバメ									58
4	28	ヨシガモ									4	59	463	コシアカツバメ			4		1	3			59
5	29	ヒドリガモ									5	60	464	ウグイス	2			1	7				60
6	32	カルガモ	4		6	13	9	10			6	61	466	ヤブサメ									61
7	33	マガモ					1				7	62	467	エナガ	9		15	25		10			62
8	34	オナガガモ									8	63	476	センダイムシクイ									63
9	35	コガモ									9	64	479	エゾムシクイ									64
10	38	ホシハジロ									10	65	481	メボロムシクイ									65
11	43	キンクロハジロ									11	66	482	オオムシクイ									66
12	56	ミコアイサ									12	67	484	オオヨシキリ						1			67
13	68	アマツバメ									13	68	501	メジロ	8	8	18	8	10	7			68
14	82	ツツドリ									14	69	507	ムクドリ	11	3	285	43	77	25			69
15	89	キジバト	4	10	3	5	4	7			15	70	509	コムクドリ									70
16	93	アオバト									16	71	514	トラツグミ									71
17	96	クイナ									17	72	526	シロハラ									72
18	100	バン				1					18	73	527	アカハラ									73
19	101	オオバン									19	74	531	ツグミ									74
20	117	カイツブリ	3	4	11	8	3	2			20	75	532	ハチジョウツグミ									75
21	119	カンムリカイツブリ									21	76	533	エゾビタキ									76
22	128	ケリ									22	77	537	コサメビタキ			4	3					77
23	134	イカルチドリ									23	78	539	オオルリ									78
24	135	コチドリ					1				24	79	545	コマドリ									79
25	169	トウネン									25	80	550	キビタキ									80
26	183	タシギ									26	81	556	ルリビタキ									81
27	188	イノシギ									27	82	561	ジョウビタキ									82
28	213	ユリカモメ									28	83	564	イソヒヨドリ			3			1			83
29	315	カワウ	9	5	3	3	1				29	84	568	ノビタキ									84
30	328	ゴイサギ									30	85	574	ニウナイスズメ									85
31	333	アオサギ	2	1		1	1	2			31	86	575	スズメ	13	97	118	34	18	65			86
32	335	ダイサギ			1						32	87	584	キセキレイ			1	2					87
33	337	コサギ					2	2			33	88	585	ハクセキレイ	9	13	31	37		25			88
34	343	ミサゴ									34	89	586	セグロセキレイ			2	1		2			89
35	344	ハテクマ									35	90	591	ビンズイ									90
36	352	ツミ									36	91	595	タヒバリ									91
37	353	ハイタカ									37	92	597	アトリ									92
38	354	オオタカ									38	93	598	シメ									93
39	358	トビ				1					39	94	600	イカル				4	2	3			94
40	363	サシバ									40	95	608	カワラヒワ	4	114	99	6	17	22			95
41	366	ノスリ									41	96	618	ホオジロ									96
42	384	カワセミ	2	3	1	1	2	4			42	97	626	カシラダカ									97
43	389	アリスイ									43	98	633	アオジ									98
44	390	コゲラ	1	1	6	5	3	5			44	99	11	ドバト	0	0	0	0	0				99
45	402	チョウゲンボウ			1	1		1			45	100	25	ソウシチョウ									100
46	407	ハヤブサ									46			カッコウSP									
47	411	サンショウクイ									47			ムシクイSP			1	1					
48	412	オオヨシキリ									48			タカSP									
49	418	サンコウチョウ									49	101	26	ハシビロガモ				1					101
50	425	モズ				7					50	102	543	ノゴマ									102
51	435	ハシボソガラス	8	12	23	12	6	35			51	種類数(種)			21	18	28	29	24	29			
52	436	ハシブトガラス	16	52	18	42	32	11			52	個体数(羽)			137	341	885	314	227	285			
53	438	ヒレンジャク									53	天候			晴	晴	晴	曇	晴	曇			
54	442	ヤマガラ	1	4	5	5	3	4			54	参加者数(人)			23	3	18	26	15	3			
55	447	シジュウカラ	11	9	13	13	9	7			55												

万博公園でツメナガセキレイ

Kazuki Hashimoto 20260911 19:30

皆様

今日の午後より万博公園を散策した際にもみじ川にてツメナガセキレイと思われる個体を観察・撮影しました。画像と参考用に地図を送付します。

ハクセキレイ、セグロセキレイと一緒にみみじ川およびその周辺の芝生上にて行動していました。

警戒心がとても強く、近づくことはできなかったため画像はどれも荒れています。

人が近づいたり、何かに驚くと飛び立ち、樹上に上がったり、また戻ってきては場所を変えてを繰り返して行動していました。

観察時の印象ですが、他のセキレイ類に比べ小さく(図鑑では16.5cm)、シルエットはどちらかと言えばタヒバリが似ていました。

また他のセキレイ類と同じく、飛翔時はよく鳴いていました。

個人的には初観察ですので、本当にツメナガセキレイでいいのかと心配なところがあります。

画像を確認していただき、ご意見ありましたらお願いします。

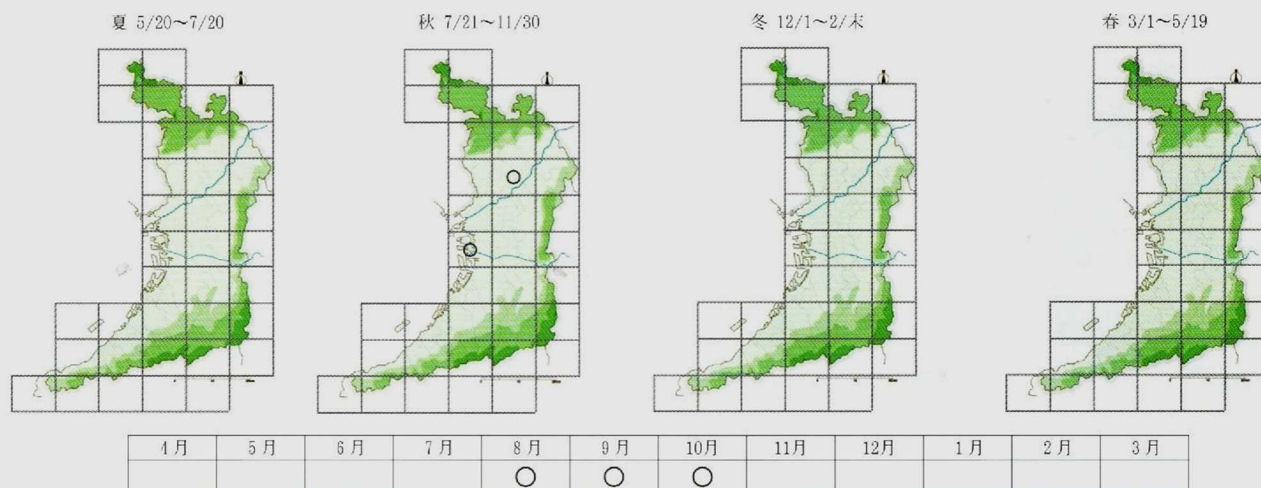
万博公園では初記録でしょうか？

橋本寿紀



ツメナガセキレイ 大阪府鳥類目録 2016

326. ツメナガセキレイ *Motacilla flava* × 迷鳥 大阪府鳥類目録2016



2012.10 高槻市

旧北区、一部新北区に分布する。ヨーロッパ、アフリカ北西部から東にユーラシアをへてアナディール地方、カムチャツカ半島やアラスカ西海岸、南に小アジア、イラン、アルタイ山脈、モンゴル、沿海州、樺太や北海道で繁殖する。冬季には熱帯域に移動する。大阪府ではごくまれに渡来する。近年は少数の記録があるが8月～10月の例のみである。

大阪府鳥類目録2016

326. ツメナガセキレイ *Motacilla flava*

大阪市住之江区南港野鳥園 ('03.10. 上旬 '06.10.

中旬 '13.8.29～9.9 1羽 9.6は2羽)

高槻市三島江 ('12.10.17 2羽 10.18 1羽)

大阪市此花区夢洲 ('15.8.30 1羽)